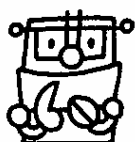


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人とかんきょう / 理解シート

日本のトキは、なぜほろんでしまったの



すみかにしている森がなくなり、農薬がえさの小動物をへらし、トキやたまごが農薬の毒で弱ってしまったためさ。

トキは人間の近くでくらす鳥のため、すみかがなくなった

トキは、田んぼや小川の近くの、森や林がねぐらの鳥です。人口がふえるにつれて、森や林は畑などに変わり、トキのすみかがなくなってきました。

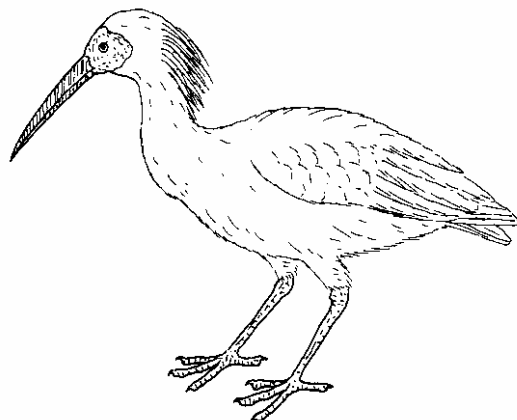
えさ場にしていた田んぼや小川には、大量の農薬がまかれ、えさのカニ、エビ、小魚などは、死んで数がへってしまいました。また、わずかに残った小動物の体内には、農薬がたまっていて、それを食べたトキの体も農薬の毒でおかしくなり、産んだたまごも、かえらなかったり、子どものうちに死んでしまったりして、子孫がふえず、とうとうほろびてしまったのです。

食物のつながりで、毒は、こくなっていく

農薬などの成分は、生き物の体内でこわされず、体内にたまっていて、食物のつながりの輪（食物連鎖^{しょくもつれんさ}）で、だんだんこくなっていきます。たとえば、ミジンコ
こん虫 貝 小魚 カニ トキの順に、えさとして食べられていくうちに、トキの体内では、水中にあった毒の1万倍以上もの、こい毒になっているのです。

今1羽だけ残ったトキは、人間でいえば90才ぐらいになるメスのため、中国からわかいトキのメスとオスをもらい受け、トキの飼育でふやすことを始めています。

1999年に、最初の1個のたまごがかえり、ふじ、成鳥になりました。けれども、自然の中では、トキが生きていけるかんきょうは、まだととのっていません。



トキ